

廣報伊方町

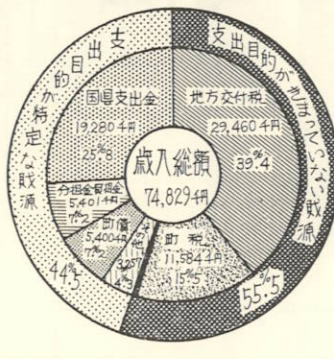
町 伊方町 尾
 人 伊方町 尾
 行 伊方町 尾
 電 伊方町 尾

10月の税金
 町民税
 保険税
 納金は
 10月末日までに

財政事情 34年度決算から 3,115万円の赤字

町の特例によって、毎年二回、町の財政状況を町民のみならずにお知らせするようになった。これと共に地方財政再建特別措置法によって財政再建計画の実施状況を公表しなければならぬことになった。限られた紙面では、充分とはいえないが、今月は昭和34年度決算を中心として財政事情の公表とあり、おもしろくない数字をなるべく、うまくもないグラフでうめたいのであ。

一 般 計 歳入の構成



三十四年度決算の結果、赤字三、一、一、五万円となった。これは、三十三年度末の赤字に比べて、百二十五万円減つておる。この赤字を解消するためには、まず一般計から、歳入の増見を待たなければならない。

計画以上に赤字を解消
 はわが町一割五分の歳入の構成は、三千万円をこえる赤字と共に、町財政の不健全をあらわしている。

事業費総額三千万円 三十四年度事業の内容

- 一 災害復旧事業 四六三万円
- 二 川永田防堤 二〇三万円
- 三 大蔵護岸 六五万円
- 四 鳥津護岸 六二万円
- 五 九町防堤 四四万円
- 六 町道(三方所) 二九六万円
- 七 川永田有寿求線新設 二九六万円
- 八 加古原線改良 一七九万円
- 九 九町物場新設 三三二万円

三十四年度は、どんな事業をしたのか、投資の経費、道路や防堤を築いたり学校を建てたりするの費用の主なものを次にかかげてみよう。

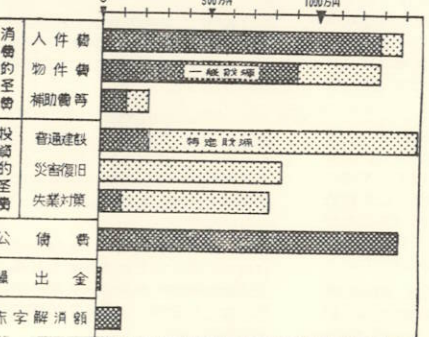
一 般 計 34年度収入はこう使われた

収入は全部で 74,829,400円 この内税金は 11,584,400円 町民1人当り 913円

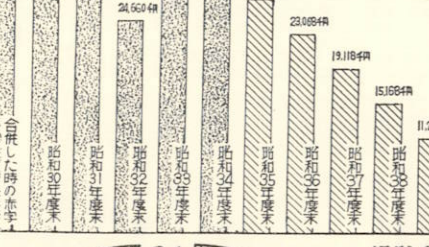
土木費	17,997,400円	1人当り 1,419円
公債費	13,771,400円	1人当り 1,086円
役場費	10,953,400円	1人当り 863円
教育費	8,679,400円	1人当り 684円
保健衛生費	836,400円	1人当り 66円
選挙費	7,863,400円	1人当り 46円
財産費	576,400円	1人当り 45円
その他	969,400円	1人当り 76円
赤字解消額	1,253,400円	1人当り 99円

昭和35年3月31日現在
 人口 12,686人
 町民1人当り 2,585円

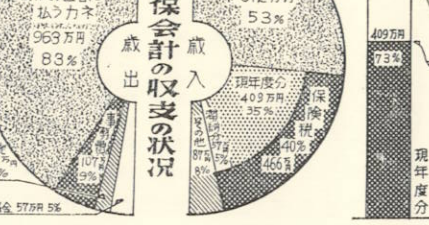
支出を性質別に見ると



赤字額のうづりかわりとその解消計画



34年度国保会計の収支状況



国保会計

国保特別会計は、五七万円の黒字で決算された。ところが保険料の集まりぐあいは、いささかおぼろしい。今までの集まりぐあいをみると、国の補助金は、保険料の徴収率が高いほど、保険料の徴収率が高くなる傾向がある。三十四年度の国の補助金は十九万円減らされているのである。

国民年金問答

甲 生命保険なら死にのみならず、病気や怪我で障害を負ったときも、期間中無事に生きていたら、掛金に利子をつけてかえりかえらる。乙 国民年金と同じ社会保険制度である失業保険をみると、百人のうち五十人しかが保険料を納めていない。甲 なるほど、社会保険制度はそんなものだから、おぼろしい。乙 国民年金は、六十歳まで納めなければならない。百人のうち五十人しかが保険料を納めていない。甲 なるほど、国民年金は、六十歳まで納めなければならない。百人のうち五十人しかが保険料を納めていない。乙 国民年金は、六十歳まで納めなければならない。百人のうち五十人しかが保険料を納めていない。

